

令和5年3月27日

甲斐市議会議長 赤澤厚様

創政甲斐クラブ 会長 内藤久歳  
新政会 会長 秋山照雄

## 視察研修報告書

1 日程	令和5年2月13日（月）～15日（水）		
2 場所	岐阜県各務原市 岐阜県安八郡輪之内町 和歌山県西牟婁郡上富田町		
3 参加者	創政甲斐クラブ	内藤 久歳 長谷部 集 赤澤 厚 保坂 康 (4名)	
	新政会	秋山 照雄 清水 和弘 樋口 孝之 安倍 健治 (4名)	
			合計8名
4 欠席者	創政甲斐クラブ	山本 英俊 (1名)	
	新政会	若尾 彰子 (1名)	
			合計2名

---

### 【研修先概要】

#### 1 岐阜県各務原市

各務原市は濃尾平野の北部に位置し、南は木曾川が東西に県境となって流れている。中山道の宿場町（鶉沼宿）として栄え、近現代には自衛隊岐阜基地などに関連する工業都市として発展した。今日では岐阜市や名古屋市のベッドタウンとなっており、人口は岐阜県で岐阜市、大垣市に続いて3番目である。

○面積 87.81平方キロメートル

○人口 145,486人

○世帯数 61,902世帯 (令和5年2月現在)

#### 2 和歌山県西牟婁郡上富田町

上富田町は和歌山県の南部に位置する。和歌山県の南西部に位置し、熊野古道「中辺路

街道」の入口であり、中央部を富田川が町を縦貫している。田辺湾が近くにあるが海には面しておらず、気候は黒潮の影響により年平均気温 18 度と温暖。交通は、南紀白浜空港より東京まで約 1 時間、紀勢自動車（上富田 IC）が開通したことで大阪まで約 2 時間、また国道 42 号並びに 311 号が通り交通輸送にも恵まれている。

- 面積 57.37 平方キロメートル
- 人口 15,712 人
- 世帯数 7,455 世帯（令和 5 年 2 月現在）

---

## 【研修報告】

### 1 岐阜県各務原市 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE（カカミガハラパークブリッジ）研修

- 研修目的 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE（カカミガハラパークブリッジ）について
- 研修日時 令和 5 年 2 月 13 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時
- 研修場所 岐阜県各務原市 各務原市役所、KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE
- 研修概要 一昨年前に学びの森周辺エリアの賑わいを創出するためオープンした「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE（カカミガハラパークブリッジ）」について、Park-PFI 制度の活用や民間事業者による整備など、その経緯や事業内容について研修した。

- 研修内容 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE は、各務原市が学びの森周辺エリアを「緑の中の賑わいある新しいまちの顔」にすべく、官民連携で事業を行う「Park-PFI 制度」を活用し生まれた施設。

岐阜県産材の香りたどよう建物内は、屋内遊戯施設「遊び創造 labo」や大きな遊具、思い思いにくつろげるテラスやベンチ、テイクアウト可能な人気の飲食店が集い、子どもから大人までが楽しめる場所となっている。

本施設は各務原市が民間事業者である飛騨五木株式会社に、PARK-PFI 制度で委託し、企画の立案から管理、運営まで行っている。

入場料は平日 600 円、休日 850 円と比較的高いように感じるが、1 日中利用ができ、途中の出入りが自由のため、利用者からは支持されている。

[PARK-PFI 制度とは]

P-PFI は、都市公園における民間の力を活用した整備・管理手法のことで、公園の利用者にとってより快適な空間となるよう、公園内の施設整備から日々の管理まで一体的に行う事業者を公募により選定する制度。

飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用して、その周辺の園路、広場等の一般の公園

利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度で、都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図る新たな整備・管理手法。



■感想 本市で現在進めている、山梨県緑化センター跡地を活用する、(仮称)篠原地区公園整備事業においては、民間ノウハウの活用や地域住民との協働などによる整備運営手法について検討しており、設計基礎調査やサウンディング業務等を進めているところである。

本市の計画でも、基本コンセプトを「次世代へつなぐ創造の森」とし、自然の中で遊べる場の創出や多世代が交流・子育て・学びのできる公園を目指しているため、各務原市の KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE (カカミガハラパークブリッジ) の先進的取り組みは非常に勉強になり、本市の計画にも参考になる事例が多く見受けられた。

今後も市議会の緑化センター跡地活用特別委員会等において、意見や提言に大いに役立てることのできる研修となった。



各務原市浅野市長挨拶



甲斐市議会赤澤議長挨拶



研修資料



浅野市長名刺



研修会場風景



KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE



施設内全景



施設内全景



施設内遊具



施設内遊具



施設内遊具



施設内トイレ



施設内飲食店



施設内飲食店



施設入口正面

## 2 岐阜県各務原市 森のわくわくの庭・輪之内店研修

- 研修目的 森のわくわくの庭・輪之内店について
- 研修日時 令和5年2月13日（月）午後3時30分～午後4時
- 研修場所 岐阜県安八郡輪之内町 森のわくわくの庭・輪之内店
- 研修概要 先の研修で訪れた各務原市の KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE（カカミガハラパークブリッジ）を管理運営している飛騨五木株式会社が、KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE に携わる前から運営していた「森のわくわくの庭・輪之内店」を現地視察した。

- 研修内容 47都道府県から集めた木材をふんだんに使用した木育施設「森のわくわくの庭」を 岐阜県養老町とで輪之内町で運営している。

KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE 同様に、施設内には飲食スペースも充実しており、途中の出入りも可能の為、1日中ゆっくりと利用ができることで好評を得ている。

閉店したスーパーマーケットを活用した施設では、どこで採れた木であるかわかるよう柱材の情報をWEBサイト上で公開し、そのサイトへ移動するQRコードを柱材に貼り付けている。来館者は楽しみながら、館内のあちこちのQRコードを探し、読み取ることで、自然と産地について知る仕組みになっています。

- 感想 KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE 同様に、本市の計画に参考になる事例が多く見受けられ、今後も市議会の緑化センター跡地活用特別委員会等において、意見や提言に大いに役立てることのできる研修となった。



森のわくわくの庭・輪之内店



施設を説明する職員



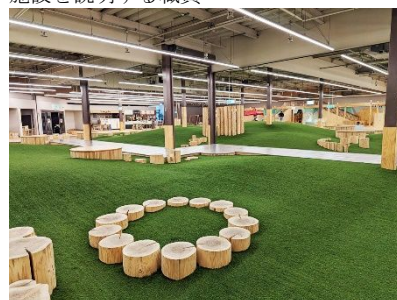
施設を説明する職員



パンフレット



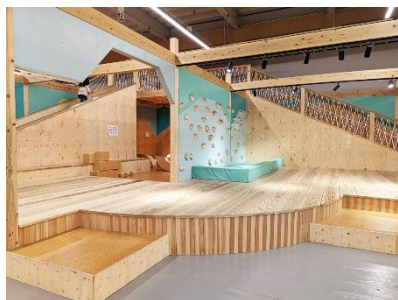
施設内全景



施設内全景



施設内遊戯スペース



施設内遊戯スペース



施設内遊戯スペース



施設内飲食店



施設内木工体験



施設内

### 3 和歌山県上富田町 DSグリーン発電和歌山合同会社紀南発電所研修

- 研修目的 DSグリーン発電和歌山合同会社紀南発電所について
- 研修日時 令和5年2月14日(火)午後1時30分～午後3時30分
- 研修場所 和歌山県西牟婁郡上富田町 DSグリーン発電和歌山合同会社紀南発電所
- 研修概要 2020年6月10日に和歌山県初の木質バイオマス発電所として商業運転を開始したDSグリーン発電和歌山合同会社紀南発電所について現地視察及び研修をした。

#### ■研修内容 ○DSグリーン発電和歌山合同会社紀南発電所

2020年6月10日に商業運転を開始した、和歌山県内初の木質バイオマス発電所。発電出力6,800kW、年間送電量は約4800万kWh。一般家庭の約1万3千世帯分に相当する。未利用材や一般材を年間およそ7万6千トン使用する。

(開発業務及び運用業務を受託しているのはグリーン・サーマル株式会社で、甲斐市の木質バイオマス発電所を現在建設し、その後運営管理を行う会社である)

発電所現地視察の前に、会議室において資料と映像を使い、これまでの経過、現在取り組み中の事業内容について研修をうけ、グリーン・サーマル株式会社が林業を活性化させ森を育成させ、それを循環させるために努力をしていることを知ることができた。

また、近隣住民や行政とのかかわりについても町役場、町議会、運営事業者と、それぞれの立場からの現実的な聞くことができた。

今回の視察で訪れた紀南発電所は、甲斐市で建設中の発電所とほぼ同規模であり、貯木エリアから、チップ行程、燃焼から発電まで、全ての工程を視察することができ、甲斐市の発電所において最も心配をされていた、大型車の往来や騒音などの問題について、直接知ることができた。

■感想 平成27年7月に策定された「甲斐市バイオマス産業都市構想」により、現在建設中の甲斐市木質バイオマス発電所を2023年度内に商業運転を開始するよう目指している。

今回の視察において、地域説明会等でもご意見が多い木材を運搬する大型車の往来やチップ化や発電時の騒音などの問題について、一定の安心感を得ることができた。

特に騒音問題については、夜間の大きな音が出る作業は行っていないということで、特に苦情はないようであったが、実際に現地で昼間の騒音を確認したところ、チップ化の音はそれほどではなく、最も大きい音は発電時のタービンの音であったが、防音壁のある建屋に入っているため屋外への音漏れはほとんど感じられない状況であった。

実際の発電所を視察することができ、甲斐市の発電所の現実的なイメージができ、課題等についても直接現地のスタッフから聞き取ることができ有意義な研修となった。



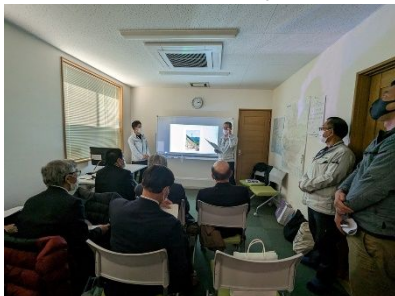
上富田町議会正垣副議長挨拶



上富田町議会家根谷総務文教委員長挨拶



グリーン・サーマル(株)滝澤社長挨拶



発電所の説明



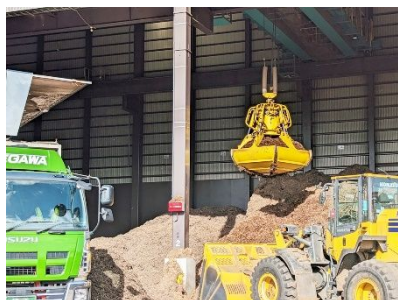
貯木場全景



貯木場



チップ化作業



チップを移動するクレーン



ボイラー下部



ボイラー最上部



ボイラー最上部



灰



ボイラー下部



タービン棟内部



タービン棟横